

“エアロマート・ツールズ2020 (デジタル)” に出展 2024年国際航空宇宙展 (JA2024) の開催告知を実施

2024年国際航空宇宙展 (JA2024) の開催告知のため、2020年12月1日 (火) ~3日 (木)、8日 (火) ~9日 (水) の計5日間に完全オンラインにて開催された「エアロマート・ツールズ 2020 (デジタル)」に参加し、オンラインによるB to B meeting、デジタル出展を実施したので紹介する。

1. エアロマート・ツールズ2020 (デジタル) の概況

(1) 開催概要

開催日程：2020年12月1日 (火) ~3日 (木) 及び12月8日 (火) ~9日 (水)

開催時間：フランス標準時間

開催場所：オンライン開催

主催者：abe / BCI AEROSPACE社

(2) 展示会の概況

エアロマート・ツールズは、航空宇宙関係のB to B meeting (商談会) としてはA&DSS Seattleと並ぶ世界最大級のB to B meetingである。

今回のエアロマート・ツールズは、当初、12月1日~3日の3日間、参加者との対面によ

るコミュニケーションでの開催予定であったが、米国などでの新型コロナウイルスの感染拡大、フランスなどでの感染状況が小康状態となったことから、EU域内の参加者は面談による商談会とし、EU域外の参加者はオンラインによる参加というハイブリッド形式に一旦変更したものの、開催間際にフランスを含む欧州地区での新型コロナウイルスの感染再拡大により、ツールズもロックダウンとなり、全てオンラインによるオンライン商談、バーチャル展示にシステムが変更されるなど、新型コロナウイルスの感染状況に応じ開催システムが適宜変更され開催に至った。

また、会期は当初の3日間に加え、オンラ



オンラインによる開催を告知するWEBサイト

エアロマート・ツールズ 開催実績

	エアロマート ツールズ 2020 デジタル (注1)	エアロマート ツールズ 2018 (注2)	備考
参加企業・団体数 参加国・地域数 商談件数	800社・団体 35ヶ国・地域 9,000件	1,500社・団体 45ヶ国・地域 16,000件	出展者・バイヤー・ビジターの総数 事前マッチングの件数

注1：主催者より速報値を聴取 注2：主催者より実績を聴取



バーチャル展示会場 入口



Japan Pavilion

イン化に伴い12月8日～9日の2日間が追加され、合計で5日間のオンラインによる商談会となった。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響により世界中のリアルな展示会が中止・延期となり、世界中の航空宇宙関係者が一堂に会するビジネスの場がほぼ消滅した中、モニター越しのオンラインではあるが海外の企業・団体の関係者と面談できる貴重な商談会となった。

B to B meetingと並行し、カンファレンスもオンラインで開催され、会期2日目には“Profiles for Japanese Aerospace Industry”と題して、SJAC国際部 羽中田部長による講演も実施された。

また、今回のB to B meetingでは、商談会の参加者にバーチャル空間に展示Boothが与えられ、各国ごとのPavilionが構成され、各出展者の製品・サービスなどを紹介するリーフレット、カタログ、動画などのデータを掲示、ダウンロードできるようにし、他の参加者への製品・サービスなどのPR、担当者とバーチャルBoothへの訪問者との名刺交換の場となっていた。

2. SJACの活動概況

SJACは、次回2024年の秋に開催を予定している国際航空宇宙展（JA2024）の出展者

登録（出展者募集）開始まで約2年3月となり、また、世界的な新型コロナウイルスの感染拡大により、人との対面によるコミュニケーションを主とした航空宇宙関係者が一堂に会する展示会・エアショーが中止・延期となり激減した中、海外の企業・団体関係者へのJA2024の知名度維持、関係者とのネットワーク維持を目的とし、オンラインではあるが面談が可能なB to B meetingに参加、オンライン面談を実施した。

昨年の3月以降のコロナ禍により、海外の企業・団体の関係者とコミュニケーションをとる機会が実質的に電子メールを中心としたものとなっていた中、今回のB to B meetingをオンラインではあるが面談できる貴重な機会ととらえ、次回の国際航空宇宙展（JA2024）の開催について告知する機会とした。

商談会では、全18件のオンライン面談が相互のリクエストに基づき事前設定され、SJACからは主に海外の工業会、政府機関などの展示会への参加に関与する機関を中心にオンライン面談をリクエストしB to B meetingを実施した。特に、フランス航空宇宙工業会（GIFAS）、シンガポール航空宇宙工業会（SAIA）の面談者は過去にパリエアショー、シンガポールエアショーなどで国際航空宇宙展の出展勧誘にて面談していた方々であり、久しぶりの面談となり、展示会関係者間の



SJAC / JA2024 PR ブース



SJAC / JA2024 VIDEO ROOM

ネットワーク維持に役立った。

今回、面談予定の後半に、面談相手国の感染防止対策強化の影響もあり、2件のオンライン面談ができなかったことは残念であった。

また、B to B meeting参加者に提供されたバーチャル展示空間に、次回の2024年の展示会開催告知に重点を置いたバーチャル展示を実施した。

SJACは、バーチャル展示場に設けられたJapan Pavilion内に出展、Japan Pavilion内にはSJACの他11社・団体のバーチャル展示があり、航空宇宙産業に対する関心の高さが伺われた。

3. 所感

本商談会は、航空宇宙関係のB to B meetingとして世界最大級のものであるが、コロナ禍により直前にオンライン面談、バーチャル展示による商談会となり、参加企業・団体も前回に比べ減少したことは残念であったが、世界中の航空宇宙関係の商談会・展示会が中止になる中、人との面談によるリアルな商談会・展示会には及ばないものの、オンライン方式という新ビジネス様式ではあるが開催されたことに一つの希望となるものを感じた。

オンライン面談の時間設定など、当初の開催地であるフランスの標準時間に基づいて時

間を設定されるため、日本から参加する場合、面談時間が夕方から夜の限られた時間帯に集中するなどの課題が感じられた。

また、オンライン面談にて使用されるPCなどの機器の設定について、海外の商談担当者が不慣れな場合もあり、接続の設定などに手間取り当初30分の面談時間が短くなったものがいくつかあった、また、通信環境などによる音声の途切・画像が表示されないなどの課題のある面談も少なからずあったが、今後、世界中でオンライン面談・ミーティングを使用する機会が増える中で改善が進むものと考えられ、SJACでも、新事務所移転に伴い通信やPC機能などの環境が大きく改善され、これらの課題は改善されていくものと考えられる。

オンラインという展示会の開催方式について、新型コロナウイルスの感染対策として、人との直接の接触を避け、遠隔地からの参加を可能とする目的から導入された開催方式であり、参加者としての経費が比較的かからず、遠隔地での開催にもかかわらず拘束日時は短い（時間帯の課題は残るが）など意外に効率的な面もあるが、上記に記載の各種課題もあり、今後、コロナ禍の収束後の商談会・展示会の開催方式として、オンライン形式が、主流の開催方式となるのか、人との面談による商談会・展示会にどのように組み込ま

れていくのか、以前の面談によるリアルな展示会に戻るのかなど、今後の開催方式としての関係者の評価は未だ定まっておらず、しばらく様子を見ていく必要があると思われる。

新型コロナウイルスの感染が収束するまでの間、世界中の航空宇宙関係者が一堂に会するビジネスの場は激減しており、しばらくの間、オンライン面談、バーチャル展示による商談会・展示会が多くなると思われるが、JA2024の開催告知などのPR活動の場として、

これらを人との直接の面談による商談会・展示会を補完する手段として使って行く必要性を感じた。

最後に費用や時間の効率が優れたデジタルのツールもフル活用して、JA2024の開催が再び皆様方にビジネスで活躍できる場の提供となり、コロナ禍に打ち勝ち日本の航空宇宙産業のリカバリーの場として貢献できるように万全な準備を進めていきたい。

〔 国際航空宇宙展事務局 部長 櫻井 浩己 〕
〔 国際航空宇宙展事務局 部長 長井 利幸 〕